

# 東松山市の寺社彫刻・仏像彫刻について

(20 期 歴史郷土学部 A 班：寺社彫刻チーム)



岩崎芳子	小川育子	栗原俊子	栗原昌雄	齋藤薫子	佐々木慶一	手塚美喜子	永井ミチ子
中島 守	萩原明夫	◎堀田 寛	松崎 宏	山田貞夫	山本末子	○渡邊 博	

私たちは、東松山市内 37 寺院および 41 神社の装飾彫刻・仏像・絵画など貴重な文化遺産にスポットをあて訪問調査を行い、課題研究テーマとした。

今回の調査を通じて、市内には予想を超える貴重な文化遺産が数多く存在していることに驚愕した。

寺社管理者の掲載許可を得た文化遺産を紹介することにより、東松山市における観光誘客の一助になることを願うものである。

同時に、私たち市民一人ひとりが、歴史深い東松山市内の文化遺産を継承し、造詣を深め、そして郷土愛を育むことを期待する。

## 目次

- 第 1 章 はじめに(寺社装飾彫刻および仏像創作の歴史)
- 第 2 章 寺社装飾彫刻の華・日光東照宮と彫刻師集団
- 第 3 章 東松山市の寺社彫刻を施した上州彫刻師集団
- 第 4 章 東松山市の調査寺社(寺院および神社)の所在地
- 第 5 章 東松山市を代表する寺社の調査報告
- 第 6 章 提言

## 第1章 はじめに(寺社装飾彫刻および仏像創作の歴史)



法隆寺(百濟観音)  
出典 Wikipedia

彫刻は、木、石、金属、粘土を材料にしたものが主力で、木材を使用した木彫り彫刻は、飛鳥時代の仏教伝来時に遡るといわれている。

仏教絵画は、古く仏教が伝来した飛鳥時代に始まり、以後たえまなく近代に至るまで描き続けられてきた。

平安時代後期には、日本独自の神仏習合(本地垂迹説と同義)思想が発展してきた。当時は、中国絵画の強い影響下にあったが、次第にその影響も弱くなり、藤原氏を中心とした貴族文化を背景に平安中期から後期にかけて我が国独特の洗練された華麗で美しい仏教絵画が完成されたといえよう。

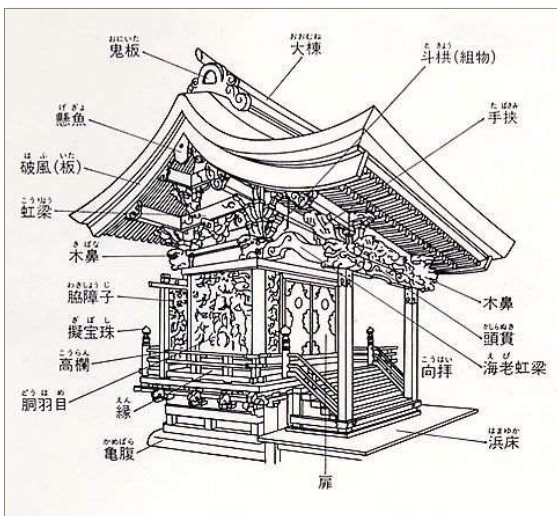
鎌倉時代には、慶派(運慶/快慶)による仏像が盛んに造られようになった。

室町時代から戦国時代には、寺院や神社が数多く建立された。

戦乱の世では、権力闘争の結果として寺社が破壊されては再建を繰り返されたため、精緻な寺社彫刻が普及しなればかりか多くの寺院・伽藍・仏像や神社が焼き討ちの被害を受けた。



東大寺(南大門仁王像) 自撮(モノクロ)



出典 鹿沼市 HP(久我神社)

徳川家康による江戸幕府設立によって戦乱の世も終焉を迎え、寺社にも仏像や精緻な装飾彫刻が施されるようになってきた。

そして、江戸初期の寺社建築に伴う装飾や彫刻は簡素であったが、臺股、木鼻や虹梁などにも精緻な装飾が施されていた。

## 第2章 寺社装飾彫刻の華・日光東照宮と彫刻師集団

寺社装飾彫刻は、以下の区分にすることができる。

- ①日光東照宮に代表される眩いばかりの荘厳かつ華やかな彩色彫刻
- ②木材の自然で素朴な美しさを緻密かつ重厚さで表わす素木彫刻

以下は、徳川家康の遺言である。

「遺体は久能山に埋葬し、葬儀は江戸増上寺で行い、位牌は三河の菩提寺大樹寺に納め、一周忌後には日光山に小堂を建て勸請せよ。そして神に祀られることで八州の鎮守となろう」と …。

二代将軍徳川秀忠は、日光山に靈廟東照社を建立したが、家康の遺言に従い当時は質素な社殿であったと言われている。(注：東照社は、正保2年(1645年)に宮号が宣下され東照宮となる)

三代将軍徳川家光は、家康公の二十一神忌にあたる寛永13年(1636年)に、現在の絢爛豪華な東照宮の大造替を行った。大造替は、寛永11年から1年5か月の歳月を要し、動員工人数は延べ約34万人、そのうち平大工約17万人、彫刻師約12万人、木挽約2万人と大勢の人々が従事し、造替費用は現在に換算すると約2,000億円になるといわれる。

日光東照宮に代表される装飾彫刻は、造替後、各地から集結した彫物師集団によって、関東を中心に神社仏閣に装飾彫刻が広まっていった。この背景には、家康の平和を祈念する遺言によるものと言っても過言ではない。

江戸中期以降、十数回にわたり日光東照宮の社殿および装飾彫刻の修理が行われ、元禄以降には彫物大工としての地位も確立した。



日光東照宮陽明門

寺社装飾の彫り方は、以下である。

- ・ 建築部材間を装飾彫刻で埋める
- ・ 建築部材自体を地彫りする

部材は、材質の堅い槻(ツキ)や、ヒノキ、カツラ、クス、ブナ、カヤなどが使用され、木目を生かした立体感を重視した木地彫りが、江戸彫りの主流となった。木材が彫工の技によって息づいているように感じられることから江戸文化の華の魁さきがけといえる。

(注：槻はケヤキの古名)

通説では、日光東照宮の装飾彫刻は荘厳かつ絢爛豪華で、彫刻棟梁は左甚五郎といわれているが…。

左甚五郎は、桃山時代から江戸時代にかけて活躍した彫刻師で、大阪南西部泉州出身の岸上甚五郎(1504年生)ではないかともいわれている(諸説あり)。

装飾彫刻のルーツは、左甚五郎の流れを汲む左氏和泉家とされており、元禄時代の東照宮大修理には彫物大工・岸上加右衛門および同太郎右衛門と記載が残っている。

元来、建築彫刻は宮大工が手掛けていたが、江戸時代には彫刻を専業とする寺社彫刻師(堂宮彫刻師)が誕生した。

仏像は、仏師が鑿のみと小刀で、寺社彫刻師は鑿と彫刻刀で制作したといわれる。

東照宮装飾彫刻の修復作業を終えた彫刻師集団は、江戸をはじめ関東一円での装飾彫刻や修復作業に従事し、江戸彫りといわれる東照宮の絢爛豪華な装飾彫刻は、庶民の心を惹きつけ、芸術文化の関心を高め続けた。

そして、寺社装飾彫刻や絵画などには、制作に携わってきた匠たちや願主など、数多くの人々の熱い想いや意気込みを感じ取ることができる。

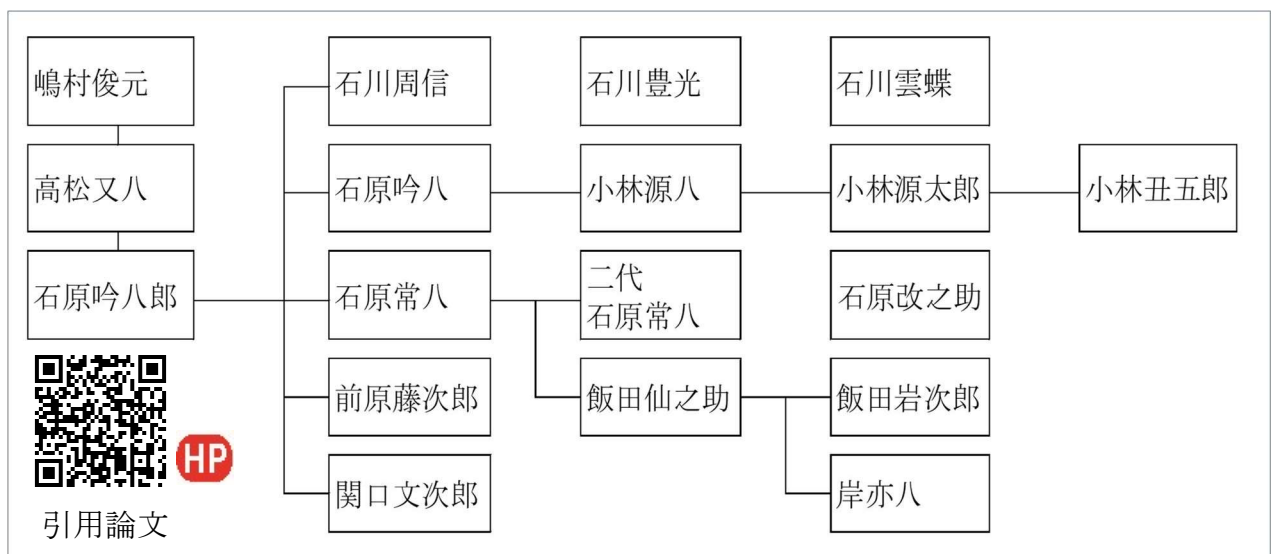
### 第3章 東松山市の寺社彫刻を施した上州彫刻師集団

私たち「寺社彫刻チーム」は、日本木彫史で確認できる左氏和泉家を祖とする嶋村俊元の門下高松又八から派生した花輪彫刻師集団の流れを汲む彫刻師の木目を活かした立体感あふれる木地彫刻を取り上げた。

木材が彫刻を施されることによって息づいている様子を一瞥できると推察する。

下記花輪彫刻師集団の彫刻師系図は、私たちチームが作成したものである。

上州彫刻師集団のうち花輪彫刻師集団の彫刻師系図(概略)



関東の彫物大工の系譜と幕府彫物大工棟梁高松家 伊藤龍一 (1991年)を基に作成

### 高松又八郎邦教（通称 高松又八）

高松又八（?～1716年）の祖先は、足利幕府の側近（蜷川佐右衛門）であったが、のちに沼田の真田家に仕えたといわれる。

高松又八は、江戸で徳川家の公儀彫刻師として石原家、後藤家、石川家、小沢家などの流派を起こし徳川家ゆかりの寺院（増上寺および寛永寺）の霊廟に装飾彫刻を施した。しかし、増上寺台徳院（二代將軍秀忠）霊廟は、第二次世界大戦で焼失した。

高松又八作品は、いすみ市行元寺の欄間彫刻に残されている。



ありし日の台徳院霊廟



行元寺の欄間彫刻

高松又八による華やかな彫刻は、鉱物顔料の祖・ラピスラズリから作られた高価な顔料（瑠璃色）を採用。

### 石原吟八郎義武（通称 石原吟八郎）

石原吟八郎は、上州花輪村出身の彫物大工棟梁で、日光東照宮の改修、妻沼歎喜院聖天堂、本庄市金鑽神社の再建に携わった。妻沼歎喜院聖天堂の再建中断期間（利根川の洪水による）の延享3年（1746年）に、門人を連れて深谷市上新田の諏訪神社を建立した。しかし、妻沼聖天堂拝殿造営途中で病にかかり亡くなるが、門人・関口文治郎が跡を継いで完成させた。



歎喜院聖天堂奥殿

門人の石原常八（初代から、二代、三代と幕末まで継続）は、高尾山薬王院や小川町八宮神社および群馬県板倉町雷電神社をはじめ各地に多くの作品を残している。



FaceBook

（上州彫刻師の埼玉寺社彫刻）

# 第4章 東松山市の調査寺社(寺院および神社)の所在地

注) 寺社所在地は目安



## 第5章 東松山市を代表する寺社の調査報告

### 岩殿山正法寺(岩殿観音)



岩殿観音図『新編武蔵風土記稿』

岩殿観音は、坂東三十三札所の第十番で千手観音坐像(一尺五寸)を祀り、左右には不動毘沙門が配置されている。毘首羯磨(帝釈天の侍臣で細工や建築を司る神から転じて美術工芸に巧な工匠)の作で僧逸海が感得した像といわれる。

寺伝には、養老2年(718年)に僧逸海が草創し正法庵と号して仮の草庵だったが、坂上田村麻呂将軍が東征の折、この観音堂に立ち寄り領民に危害を加えた悪竜を射止めたことが伝承されている。

旧暦六月の始め、金属をも蕩かす炎暑にもかかわらず、指をも落とす寒気で積雪が一尺(30cm)余りに達し、篝火を焚いて雪中の寒気を凌いだと語り継がれている。大同元年(806年)坂上田村麻呂将軍が、聖武天皇の令旨により堂宇を建造した。

坂東三十三ヶ所の成立は、鎌倉幕府のころであり、観音信仰に厚かった初代鎌倉殿源頼朝が発願し、三代鎌倉殿源実朝が幕府に仕えた御家人と深く関わりのある寺院三十三ヶ寺を制定したといわれる。

なお、三十三の数は、観世音菩薩が衆生を救済するために変化する姿(応現身)からきているという。

観音堂には、北条政子の護り仏である千手観世音菩薩坐像が祀られている。

坂上田村麻呂將軍の功績により、本観音の利生(仏の恵み)なればとのことで伽藍



観音堂

建立の宣旨を賜わり凡そ六十余の堂宇が造営された。

源頼朝は信仰厚く、二位禅尼(政子)も帰依浅からず正治2年(1200年)に殿堂の再造に至り一山が舊観(元の姿)に復興し、左衛門督入道覚西に別当を兼務させた。覚西入滅後に、衆徒などの追福のため建てられた石碑が正法寺の側にあったといわれる。



山門(仁王門)

永祿10年(1567年)9月上田能登守朝直が立て籠もっていた松山城攻めの折、兵火のため本堂以下坊舎に至るまで悉く灰燼に帰し、縁起や古文書をも損失した。

天正2年(1574年)に別当榮俊が檀越(施主を募り舊観に復元)し、天正19年(1591年)に二十五石の朱印地を拝領した。

仁王門の仁王像は、天明年中(1781年～1789年)に焼失したが、当時の仁王像は運慶の作といわれる。

寛政6年(1794年)には、出家した皇族が入寺することのできる永代寶光院室兼帯を許され、十六菊の紋の掲揚が認められ、正法寺には修善院と寶光院の二つの院号がある。

元亨2年(1322年)に鑄造された鐘の銘字は自然と消え失せてしまった。縦横に多数の瑕きずがあることから軍器用に用いられたことが推察できる。



鐘楼



**熊野山清見寺(上野本 1683) 調査訪問日 (2023/9/1)**

上田能登守朝直が帰依していた地蔵尊を安置して元亀年間(1570年～1573年)に地蔵堂を建立、功屋賢作が文禄年間(1593年～1596年)に開山した。

徳川十六神将の一人渡辺守綱が、徳川の関東移封に伴い三河の国から武蔵国比企郡に移り 3000石を与えられた。守綱は一向宗の信徒であり、当寺の本尊は地蔵菩薩から阿弥陀如来に変わったといわれる。

- ・心字座板石塔婆(市指定文化財)(1249年)の銘



**利仁山無量寿寺(下野本 662) 調査訪問日 (2023/3/16)**

創建年代等不詳、長享年間(1487年～1488年)に僧性岱が禅宗寺院として再興した。徳川家康時代に寺領 10石の朱印状を受領した。銅造誕生釈迦仏は、県内最古の誕生仏(平安時代)である。

当地は野本基員を初代とする野本氏一族館跡で、二重の土塁と空堀を持つ。

- ・銅造誕生釈迦仏立像(県指定文化財)
- ・野本館跡(市指定文化財)



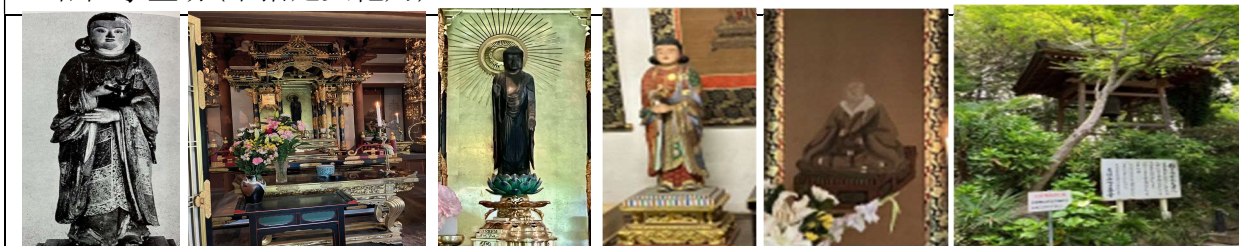
観光ガイドスポット  
(無量寿寺)

**高綱山了善寺(下野本 1076) 調査訪問日 (2023/5/21)**

山門は薬医門形式である。本堂に「龍」の欄間彫刻、向拝柱上部に「阿吽」の見返りの唐獅子の木鼻彫刻がある。

塾は、明治8年(1875年)嵩俊海により開塾された私塾で、三河国に開山したものを渡辺守綱の子・吉綱が野本を知行する際に移転したといわれる。

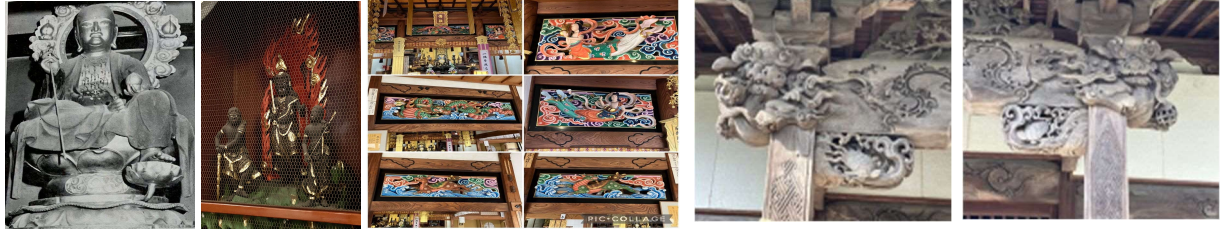
- ・春桂家塾跡(市指定文化財)



大願山浄光寺(下青鳥 126) 調査訪問日 (2023/4/2)

仁治元年(1240年)青鳥山延命寺と号して創建、天正年間(1573年～1591年)に当地へ移転し浄光寺と改号した。本尊延命地藏菩薩は秘仏(行基作)、縁起絵巻は江戸後期の仏教絵画である。慶安年間(1648年～1652年)に寺領 23 石の朱印状を拝受した。

- ・ 融通念仏縁起絵巻(市指定文化財) ・ 板石塔婆(市指定文化財)



青鳥山妙昌寺(神戸 1121) 調査訪問日 (2023/6/2)

弘安 4 年(1281 年)青鳥城主藤原利行が妙昌院日仙を開山に迎えて創建、妙昌寺とした。日蓮の直弟子・日法によって彫刻された祖師像(像高 68.5 cm 寄木造り)を安置(室町時代の作)した。祖師堂板石塔婆は貞和 2 年(1346 年)日蓮 65 回忌の供養碑(高さ 160 cm、幅 40 cm)、五重造りの瓦塔は安永 5 年(1776 年)、板石塔婆は文明 13 年(1481 年)の銘がある。鬼子母神像は、今でも毛髪が伸びているという。

- ・ 祖師堂板石塔婆(県指定文化財)
- ・ 日蓮上人祖師像(市指定文化財) ・ 瓦塔、板石塔婆(市指定文化財)



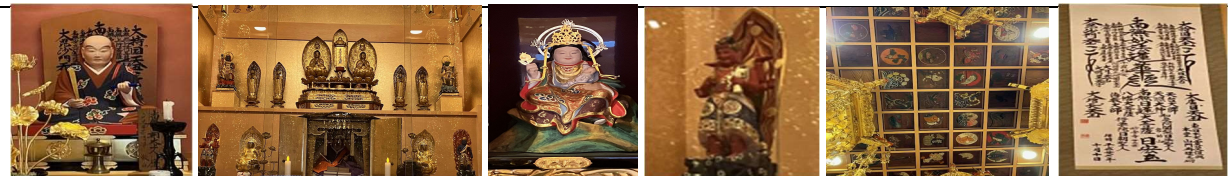
八正山定宗寺(石橋 518) 調査訪問日 (2023/5/29)

天台宗・定宗寺(石橋村)は、下青鳥村・浄光寺の末寺で八正山薬王院と号す。開山は能存で、慶安 3 年(1650 年)7 月 24 日寂す。本尊は薬師如来を安置している。



常祐山妙安寺(田木 91) 調査訪問日 (2023/4/6)

戦国時代から江戸時代初期に創建され、数多くの仏像彫刻が安置されている。



東崎山世明寿寺(正代 742-1) 調査訪問日 (2023/3/26)

普門閣の千手千眼観世音菩薩立像は、一木造りで像高は 195cm、玉眼で現在は彩色も漆箔も見られない。複雑で装飾的な折り返しを見せる衣文に宋風の影響が顕著で、鎌倉後期に盛行した宋風彫刻に類似しており、南北朝前後(14C 半～後半)の造像といわれている。

二十八部衆は三十三間堂(蓮華王院)同様の風神・雷神を加えた 30 体の脇侍で、いずれも 60 cm 高の寄木造りで彩色は残っていない。算額は明治 16 年 11 月に奉納された。

- ・千手観音立像(市指定文化財) ・二十八部衆像(市指定文化財)
- ・算額(市指定文化財)



観光ガイドスポット  
(世明寿寺)

常楽山青蓮寺(正代 864-1) 調査訪問日 (2023/3/16)

小代氏が四代過ぎたあと、元寇に備えるため現在の熊本県荒尾市に一族で移り住んだ跡に建造された。板石塔婆は小代氏一族の関係者が弘安 4 年(1281 年)に建立した。小代重俊供養塔も建立された。天井画は龍の墨絵(七十一翁雪湖の雅号あり)、格天井は 77 格子の花鳥画で拝殿は 500 年～600 年程前に建造されたとのこと。境内には俱利伽羅不動庚申塔および御霊神社(悪源太源義平を祀っている)がある。

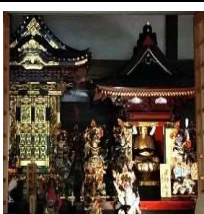
- ・弘安四年板石塔婆(県指定文化財)



巖殿山正法寺(岩殿 1229) 調査訪問日 (2023/7/13)

観音堂正面右側の 船子夾山図は、船子和尚が棹を振り上げ、夾山善會と禅問答を行い、船子和尚の問いに夾山が回答する。船子は夾山の名答に未来を託したという。

- ・銅鐸(県指定文化財) ・六面幢(県指定文化財) ・鐘楼(市指定文化財) ・算額(市指定文化財) ・明版大蔵經(市指定文化財) ・中世文書(市指定文化財) ・双雀草文鏡(市指定文化財) ・阿弥陀堂板石塔婆(市指定文化財) ・大銀杏(市指定文化財) ・阿弥陀一尊板石塔婆(市指定文化財) ・阿弥陀三尊板石塔婆(市指定文化財)



観光ガイドスポット  
(正法寺)

慈雲山来迎寺=等覚院(古凍 536-1) 調査訪問日(2023/5/6)

暦応5年(1342年)に誓信上人が開基し、享保6年(1721年)に玄海上人が中興した。木造阿弥陀如来坐像は市を代表する古仏の一つで像高は87.4cm、胎内に建長5年(1253年)仏師定性の修理銘がある。(毎年10月15日ご開帳)

- ・木造阿弥陀如来坐像(国指定重要文化財)



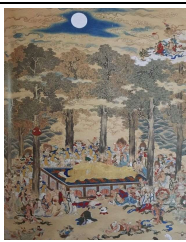
観光ガイド  
スポット  
(阿弥陀如  
来坐像)



清涼山曹源寺(本町 1-5-3) 調査訪問日(2023/6/22)

寛永2年(1625年)僧起山が創建した。ご本尊延命地藏菩薩は、小野篁作と伝えられる。十界図および釈迦涅槃図(江戸時代後期の仏画)は、当時の松山町出身で狩野派に学んだ幻の絵師・江野樸雪によるもの。

- ・十界図および釈迦涅槃図(市指定文化財)



Kirameki20 (十界図)  
(曹源寺)



法音山福聚寺(本町 2-10-10) 調査訪問日(2023/5/28)

天海僧正が徳川家康公の御霊を日光にお祀りするため小庵で雨宿りした際、箭弓稲荷神社の神霊が出現し行幸を手助けしたという。そのため、一寺(福聚寺)が創建された。明治政府による神仏分離令まで祐弁から16世堯海までの250年間、箭弓稲荷神社の別当寺としての役割を果たした。『武蔵国比企郡松山正一位箭弓稲荷大明神略縁起』は、本殿拝殿造営成就記念として、別当福聚寺堅者法印順性が記した由緒書があり、別当寺として貢献した十五世順性住職の墓も確認できる。江野樸雪作の釈迦涅槃図がある。



扇谷山宗悟寺(大谷 438) 比企一族ゆかりの寺院 調査訪問日(2023/8/24)

建仁3年(1203年)比企の変後、二代鎌倉殿源頼家の側室・若狭局が頼家を弔うために庵を結んだことが起源とされる。三河以来、家康に仕えた家臣・旗本森川金右衛門氏俊の菩提寺で、宗悟は金右衛門の法名である。若狭局が持ち帰ったと伝わる頼家の位牌および頼家を失った苦しみから逃れるため祀った蛇苦止観音も須弥壇に安置されている。徳川将軍から贈られた森川氏の陣羽織がある。今回調査で初めて開示された釈迦涅槃図(日露戦争後に再表具されたが絵師は不明)、十三仏図掛軸も圧巻である。

- ・ 森川氏累代の墓(市指定文化財)



観光ガイドスポット  
(比企一族)

慈雲山妙安寺=上岡観音(岡 1729) 調査訪問日(2023/8/24)

文禄元年(1592年)祖真和尚が開山、江戸期は諏訪神社(岡)の別当寺であった。境内の馬頭観音は、滑川出身で大乗寺(金沢)の住職愚禅和尚が流布に努めた上岡の観音様として著名で、毎年2月19日の縁日は参詣者で賑わう。観音堂に施された数々の馬や狛犬などの素木彫刻は飯田岩次郎作と言われる。

- ・ 上岡観音絵馬市(国：選択無形民俗文化財)



四國山光福寺(岡 498) 調査訪問日(2023/7/16)

ご本尊十一面観音は行基作といわれる。宝篋印塔は、沙彌閣阿が元亨3年(1323年)に大旦那比丘尼妙明と藤原光貞の供養のため建立された鎌倉後期を代表する供養塔で、塔の高さは2.1mである。板石塔婆は、総長1.869mで緩やかな台形をしており、下部に嘉元4年(1306年)二月吉日の銘がある。当時、釈迦堂には釈迦如来坐像(六尺：行基作)が祀られていて、現在は釈迦如来の頭部が安置されている。

- ・ 宝篋印塔(国指定重要文化財)
- ・ 板石塔婆(県指定文化財)

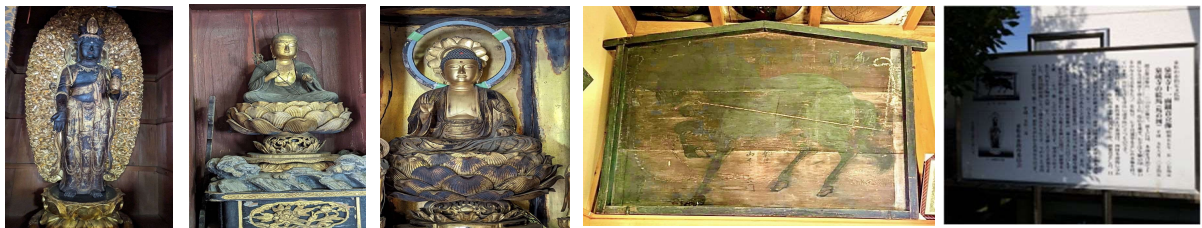


薬王山泉蔵寺(上押垂 116-1) 調査訪問日(2023/9/1)

創建年代等不詳で浄光寺管轄の末寺である。市内最古の絵馬(馬の図)は、狩野朴齋による大絵馬(縦 111.5 cm、横 175 cm)で、山下三郎エ門が元禄 3 年(1690 年)に奉納した。観音像は像高 110 cm の立像で、頭上に本面を含め十一面の菩薩面十面と頂上仏、化仏を載せ、右手は与願印を結び、左手は蓮華を差した水瓶を持つ。胎内から発見された銘文には、天正 3 年(1575 年)に仏師玉運浄玄法眼が造像とある。

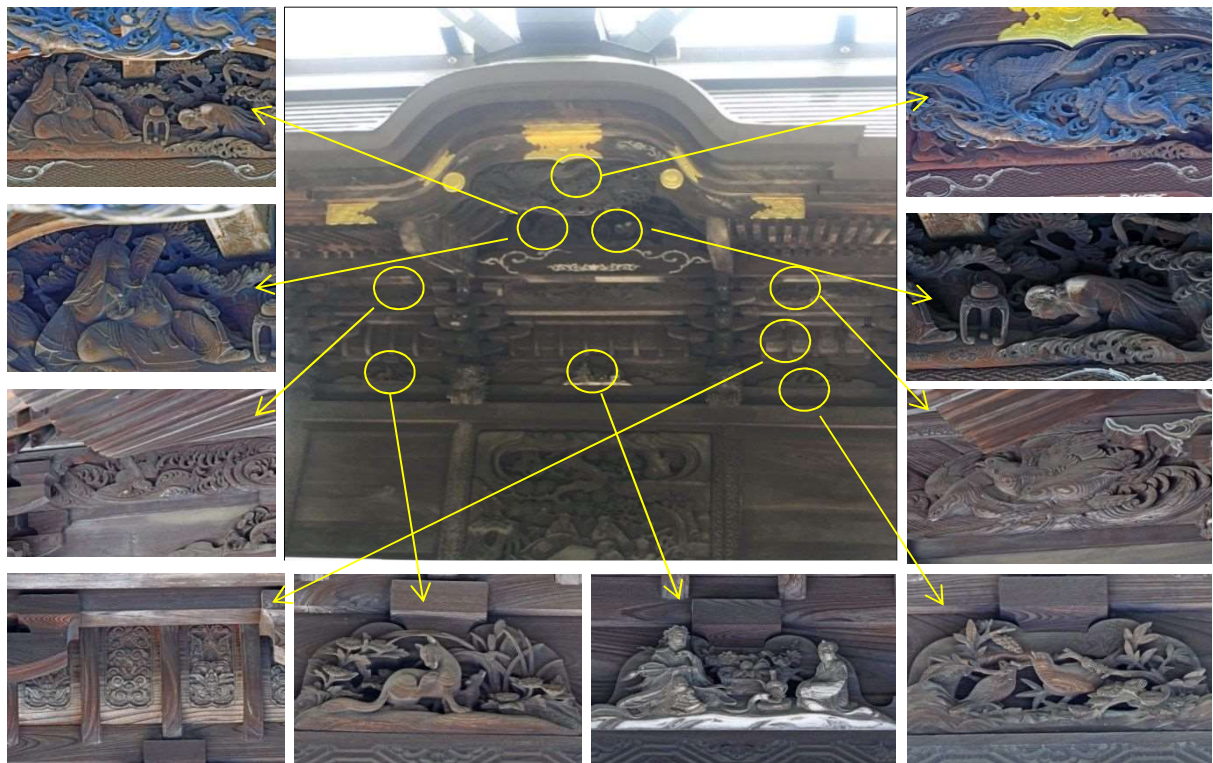
(毎年 10 月 19 日ご開帳)

- ・ 絵馬(市指定文化財)
- ・ 十一面観音立像付胎内仏(市指定文化財)

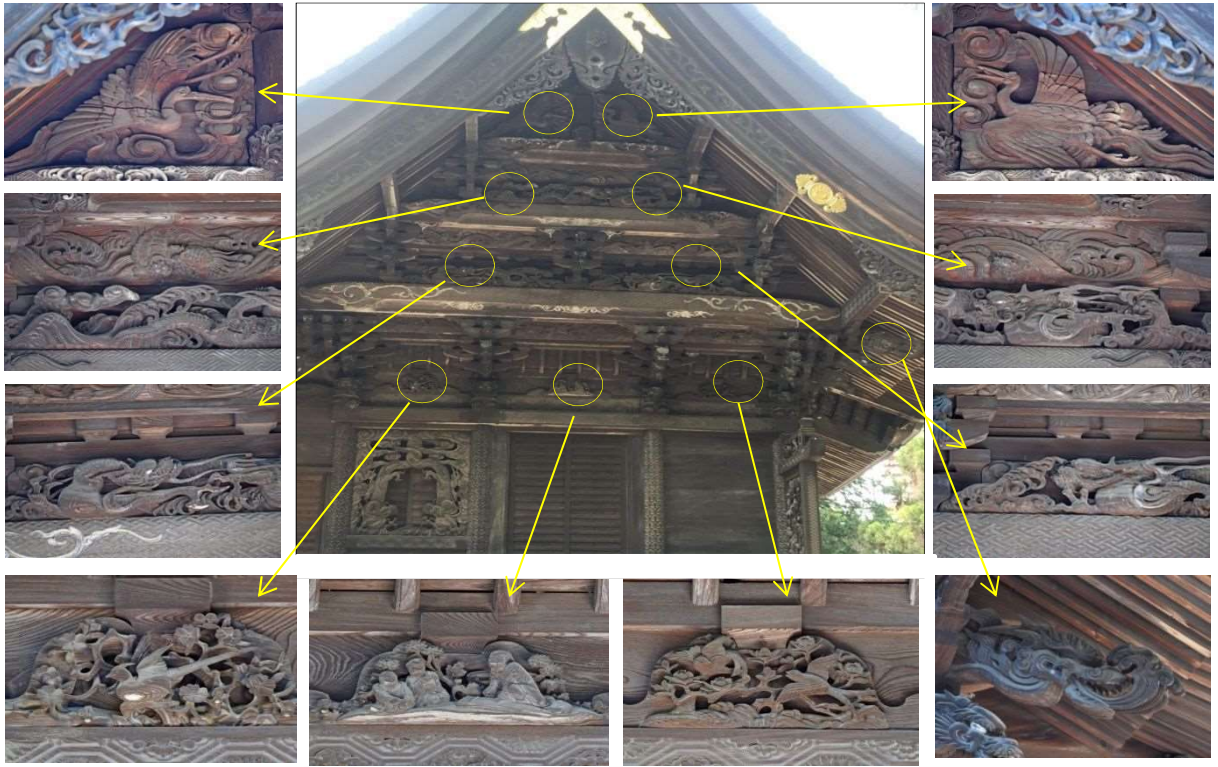


箭弓稲荷神社

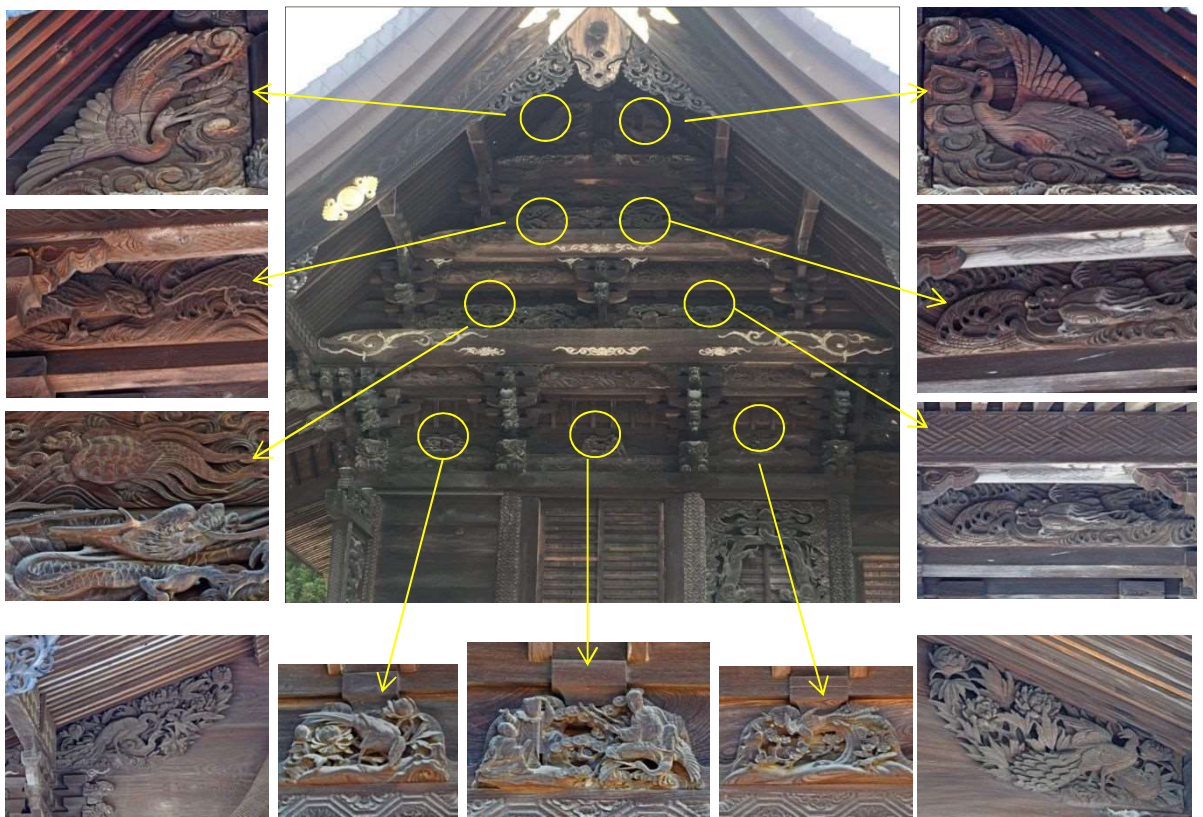
(令和 6 年 1 月 19 日、箭弓稲荷神社は国指定重要文化財となった)



本殿背面素木彫刻



本殿北面素木彫刻



本殿南面素木彫刻

創建が和銅5年(712年)といわれる箭弓稲荷神社は、当時、野久神社と称された。長元元年(1028年)に起きた平忠常の乱を平定すべく源頼信は、野久神社で戦勝祈願すると、にわかには白い雲が矢の形になって平忠常の陣めがけ飛翔した。これは吉兆であると出陣し平忠常の乱を平定した後、戦勝報告を野久神社で行い箭弓稲荷神社と改めた。

本殿は、享保年間(1720年代)に妻沼歎喜院聖天堂を建立した大工棟梁林兵庫正清、装飾彫刻は、彫刻棟梁石原吟八郎および小林源八によって仕上げられた。

社殿には、龍や猿などの霊獣/瑞鳥や花鳥および故事に基づいた素木彫刻が所狭し



元宮の彫刻：司馬温公甕割図

に施されている。その当時の社殿は、100年前の享保時代の本殿を<sup>じゅうこん</sup>重建したものでその名残は本殿内陣の扉回りにみることができる。

熊谷宿の小林源八は、飯田仙之助の先輩格にあたり箭弓稲荷神社建立に彫工として活躍した。永い年月をかけて建立された社殿全体は、天保14年(1843年)に完成した。拝殿の脇障子彫刻は、飯田仙之助の門人・岸亦八および息子の飯田岩次郎が競って鑿<sup>ふる</sup>を揮った。

飯田岩次郎は、息障院山門や宝登山神社にも名作を残している。



元宮の社殿

手水舎

境内で最も古い建築物の元宮社は、享保年間(1716年～1735年)以前に造られ、元宮の社殿彫刻は、司馬温公瓶割の図が施されている。






手水舎は天保7年(1836年)に建立、手水鉢は文政9年(1826年)造られた。

箭弓稲荷神社には数多い文化財があるが、現在は同社にて嚴重に保管されている。

- ・社殿付棟札二枚(県)
- ・元宮(市)・手水舎付手水鉢(市)
- ・絵馬&絵馬彫刻8点(市)：
  - 牛若丸と弁慶/武人と騎馬武者/俵藤太秀郷/
  - 関羽と張飛/予讓の仇討頼/頼信脇息に寄り/㊦呉服店/馬上の中国武人




箭弓稲荷神社の社殿には、霊獣や瑞鳥をはじめ数多くの動植物などの題材が彫刻されている。拝殿/幣殿/本殿に施されている彫刻を確認できると、神社参詣の楽しみが倍加するので詳細を紹介する。


社殿彫刻のさまざまな題材(霊獣/瑞鳥/花鳥等)						故事に基づく彫刻	
拝殿						黄石公と張良	
軒回り	菊	蒲公英					
	龍	飛龍	龍馬	唐獅子	獾		
	鳳凰	瑠璃鳥	松	梅	竹		
脇障子	仙人	唐子					
	鳳凰	鸞					
	梅	雲					
幣殿						楚漢の戦い	
本体	狛犬						
	燕	音子	紅葉				
	波						
本殿							
腰組	龍	飛龍	水犀	神亀	海馬		
	鯉	鼉龍	波	蛟			
洞羽目	龍	仙人	対局		二龍		仙人の烏鸞と斧柯
	鳳凰	三鵲	燕	音呼	梅		
	葡萄	蒲公英	波				
軒上	仙人	唐子	飛龍	鶴	亀		
	菊	雲	波				
脇障子	龍	狛犬	牡丹	雲			

箭弓稲荷神社の細部彫刻は、下記 QR コードを読み取って参照されたい。



Youtube  
(箭弓稲荷神社内 )



Youtube  
(箭弓稲荷神社素木彫刻) 

八幡神社(上野本 1239) 調査訪問日 (2023/3/16)

創建年代等不詳、江戸期渡辺重綱が地頭となってから渡辺家の祈願所となる。  
明治22年(1889年)から始まった都幾川の堤防を治す土手普請が完了したことを記念して明治25年(1892年)絵馬が奉納された。絵馬の8本の白旗は、協力した上野本/下野本/柏崎/古氷(凍)/今泉/下青鳥/上押垂/下押垂の村を表す。

・絵馬(市指定文化財)



氷川神社(下青鳥 64) 調査訪問日 (2023/7/6)

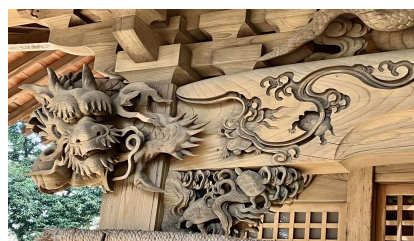
正徳5年(1715年)武蔵一の宮氷川神社から分霊を受けて再建された。新編武蔵風土記稿によると、別当は浄光寺門徒の久遠寺千住寺であった。本殿は総檜の一間社流造り、柿葺の社殿は千鳥破風付き向拝唐破風で全体的に簡素で力強さを見せている。飯田岩次郎作と思われる素木の社殿彫刻で俱利伽羅紋柱(昇り龍/降り龍)、尾垂彫刻(蜃/龍鼻/獏)、社殿壁面彫刻(温公甕割図、王子喬など)がある。



Kirameki20  
(氷川神社)

松山神社(日吉町 5-19) 調査訪問日 (2023/6/22)

康平6年(1063年)に大宮氷川神社を勧請して創建し氷川社と称していた。寛永元年(1624年)には熊野神社(ご祭神:伊邪那美命)を合殿に祀り松山宿の総鎮守として崇敬を集めていた。社殿彫刻は精緻で美しい。境内には、大鳥神社、浅間神社を合祀している。明治6年に村社となり、明治16年に社号を氷川神社熊野神社から松山神社と改め、昭和20年郷社に列格したといわれる。伊都能賣魂社(いづのめみたま社):巖霊(荒魂と和魂が合わさった)と瑞霊(幸魂と奇魂が合わさった)の和合した霊魂で、穢(けがれ)を払い、禍(まが)を直す神とされる。



伊都能賣魂社

### 天神社(下青鳥 818) 調査訪問日 (2023/7/6)

創建年代等不詳、元文2年(1737年)に下青鳥が二郷に分かれたのを機に当地へ遷座した。社殿は単層切妻造りの近世期社殿建築で、飯田祐次郎作の銘がある見事な向拝彫刻がある。



### 八雲神社(本町 1-5-8) 調査訪問日 (2023/6/21)

旧松山宿の総鎮守として創建された氷川神社(現在は松山神社に改称)の末社として、安政6年(1859年)再建のために金品を募り、明治7年(1874年)に再建された。ご祭神は、倉稻魂命(うかのみたまのかみ)で、社殿は河原明戸(熊谷市)の名工飯田仙之助とその弟子が精魂込めて造り上げた傑作である。社殿正面は花鳥や龍・唐獅子、左右/背面は日本神話の世界が彫られている。社殿の切妻も深彫り彫刻で飾られている。

- ・社殿(市指定文化財) 正面：花鳥及び竜と唐獅子、左面：神功皇后新羅征伐凱旋の場、右面：盞鳴命大蛇退治の場、背面：天照大神の天岩戸の場



観光ガイドスポット  
(八雲神社)

### 大雷神社(大谷 3506) 調査訪問日 (2023/6/18)

創建時期は、①社伝では、貞観元年(859年)②僧侶祖恵弁宝が大治元年(1126年)大雷命を祀った時と二説あり、雷電山古墳の墳上に鎮座している。祭神は大雷命で水の神様である。江戸時代、豊作の祭礼には江戸から力士を招いて奉納相撲が盛大に開かれた(一の辻は大相撲、二の辻は草相撲)。その様子を描いた絵馬が残されている。この奉納相撲は、大谷のぼた餅相撲と言われた。社殿彫刻は、黄石公と張良や、許由(きょゆう)が潁水(えいすい)で耳のけがれを洗い落としているのを見た巢父(そうほ)が、そのような汚れた水は牛にも飲ませられないとして牛を連れて帰ったという故事に基づいた彫刻がある。また、三国志演義(劉備・関羽・張飛の桃園の誓い)など繊細な素木彫刻で装飾され、彫工は飯田岩次郎と言われる。

- ・相撲場(市指定文化財) ・絵馬(市指定文化財)



汎用：YouTube



HomePage



## 第6章 提言

寺社訪問調査に際し、各責任者および管理者のご丁寧なご説明に感謝申し上げます。東松山地区の建造物や装飾彫刻は、多年にわたる風雨や砂塵、直射日光に晒されるため、当時の状態を‘as it was’として持続させることは、きわめて困難であり数十年ごとの修復作業が余儀なくされる。市内寺社訪問調査により、お宝の維持・管理・保存が必至であることは論を俟たない。

私たち「寺社彫刻チーム」は、貴重な東松山市の文化財遺産を広く市民に認識・理解してもらうため、郷土資料館の早期開設を切望するものである。

### 参考資料

- ・根岸喜夫/田中政司(1957年)『新編武蔵風土記稿第16巻』新編武蔵風土記稿刊行会
- ・埼玉県神社庁HP「埼玉の神社」<https://www.saitama-jinjacho.or.jp/search/>
- ・伊東龍一(1991年)「関東の彫物大工の系譜と幕府彫物大工棟梁高松家」『日本建築学会計画系論文報告集第420号』日本建築学会
- ・辻達也(1991年)『日本の歴史13江戸開府』中央公論社
- ・澤田昌生/吉田弘(2016年)『箭弓稲荷神社御鎮座千三百年記念誌』
- ・「関東の彫物大工の系譜と幕府彫物大工棟梁高松家」  
「上州彫刻師の埼玉寺社彫刻」(閲覧日 令和5年11月9日)  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/aijax/420/0/420\\_KJ00004076675/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/aijax/420/0/420_KJ00004076675/_pdf)
- ・「観光ガイドスポット」(閲覧日 令和5年11月9日)  
「無量寿寺」<https://higashimatsuyama-kanko.jimdofree.com/%E7%84%A1%E9%87%8F%E5%AF%BF%E5%AF%BA/>  
「世明寿寺」<https://higashimatsuyama-kanko.jimdofree.com/%E4%B8%96%E6%98%8E%E5%AF%BF%E5%AF%BA/>  
「岩殿観音」<https://higashimatsuyama-kanko.jimdofree.com/%E5%B7%8C%E6%AE%BF%E8%A6%B3%E9%9F%B3-95%AA%E6%9C%AD%E6%89%80/>  
「比企一族」<https://higashimatsuyama-kanko.jimdofree.com/%E6%AF%94%E4%BC%81%E4%B8%80%E6%97%8F/>  
「八雲神社」<https://higashimatsuyama-kanko.jimdofree.com/%E5%85%AB%E9%9B%B2%E7%A5%9E%E7%A4%BE/>  
「等覚院国指定重要文化財」<https://higashimatsuyama-kanko.jimdofree.com/%E6%85%88%E9%9B%B2%E5%B1%B1%E6%9D%A5%E8%BF%8E%E9%99%A2-%E7%AD%89%E8%A6%9A%E9%99%A2-%E9%98%BF%E5%BC%A5%E9%99%80%E5%A6%82%E6%9D%A5%E5%9D%90%E5%83%8F/>  
「曹源寺十界図」<https://higashimatsuyama-kanko.jimdofree.com/%E5%8D%81%E7%95%8C%E5%9B%B3/>
- ・「YouTube」(閲覧日 令和5年11月9日)  
「曹源寺」<https://youtu.be/clvPgmeMfW0>  
「光福寺」[https://youtu.be/W\\_EREtfc60A](https://youtu.be/W_EREtfc60A)  
「箭弓稲荷神社内陣」<https://youtu.be/wi75Rj2137k>  
「箭弓稲荷神社の素木彫刻」<https://youtu.be/sswaTKDLq1I>